

この道究め 功績に光

秋の叙勲

秋の叙勲が発表され、市内からも地域や市民の暮らしを長年支えたさまざまな分野の人々が受章した。その中から4人にこれまでの歩みや喜びの声を聞いた。

(出口有紀、篠塚辰徳、白名正和、鈴木沙弥)



瑞宝中 授章

教育研究功勞

佐々木雄太さん(78)

二〇〇四年から八年間、県立大(長久手市)の学長を務めた。県の財政が逼迫し、県立大の不要論も出る中、県営の三大学を一括して運営する公立大学法人の設置、県立大と県立看護大の統合にも尽力した。

京都大法学部に入ったが法の解釈に魅力を感じず、英国の政治外交史を専攻。一九八四年に名古屋大に移り、先進国の仲間入りを目指すアジア諸国の法整備を支援する拠点を設けた。「先進国の法律をまねるだけでなく、その国の住民の考え方や文化に根差さないと法は働かない」。常に周りに優しい視線を注いできた末の受章。「今までやってきたことが評価されてうれしい」

(守山区花咲台)

良質な教育環境を追求

を砕いた。

「良質な教育を受けられる普通の大学という良さを訴え続けた」と振り返る。その後、名古屋経済大(犬山市)の学長に。生活に困窮する学生が安心して学べる環境づくりに心を砕いた。